

2026年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52204	子どもの保健 Child health	中島 志保			2	選択	1年前期

科目の概要

本科目は、子どもの心身の健康の保持・増進を図ることを目的とし、保育の専門家として必要な保健的対応に関する基本的知識を身に付ける。子どもの身体的な発育・発達と保健を理解し、心身の健康状態とその把握について学ぶ。また子どもに見られる主な疾病（感染症・アレルギー疾患・その他の病気）の特徴を理解し、保育所における予防と対応について学ぶ。子どもを取り巻く環境と地域における母子保健対策を知り、保育者として家庭・地域・専門機関との連携について理解する。そして保育者として自らの健康管理の必要性に気づき、行動する意識がもてるようにする。（これらの内容はディプロマ・ポリシー③④⑥に相当する。）

学修内容	到達目標
① 保育における子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義と家庭・地域・専門機関との連携について理解する。 ② 乳幼児期における身体発育と生理・運動機能の発達、その評価について理解する。 ③ 子どもの健康状態の観察とその把握、心身の不調の早期発見と対応、保護者との情報共有について理解する。 ④ 子どもに見られる主な疾病（感染症・アレルギー疾患・その他の病気）の特徴、保育所における予防と対応、他職種間との連携について理解する。	① 「子どもの健康の考え方」について述べるができる。地域における母子保健サービスを挙げ、家庭・地域・専門機関との連携について述べるができる。（DP③⑥） ② 発育・発達の原則および月年齢における発育・発達とその評価について述べるができる。（DP③） ③ 子どもの健康状態の観察項目と心身の不調などの早期発見及びその対応、保護者との情報共有の必要性について述べるができる。（DP③） ④ 子どもに見られる主な疾病（感染症・アレルギー疾患・その他の病気）の特徴と保育所における予防・対応、他職種間との連携の必要性について述べるができる。（DP③④）

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性 ア. 毎週予習を行い、授業内容を把握し授業に臨むことができる。 イ. 課題に必要な知識について、テキストや文献を使って自己学修することができる。
	働きかけ力
	実行力 ア. 復習・課題は積極的に実践し、課題は提出日を守る。 イ. 保育者の視点で自ら健康について意識し、行動に移せる。
考え抜く力	課題発見力 情報を客観的に整理し、子どもの健康状態や必要な対応等を考える能力を身に付けることができる。
	計画力
	創造力 子どもの健康の保持・増進について固定概念に捉われないこと、保育所と家庭、地域の専門機関・関係機関との連携など、様々な方向から考えることができる。
チームで働く力	発信力 整理した内容を的確な文章で表現できる。
	傾聴力 意見を聴く時は共感・共有する姿勢を持ち、自分の意見との共通点・相違点を肯定的に受けとめることができる。
	柔軟性
	状況把握力
	規律性 ア. 遅刻、無断欠席など学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 イ. 授業終了時は、机上の消しゴムなどのゴミを片付け、整理整頓してから終えることができる。 ウ. 欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。
	ストレスコントロール力

テキスト及び参考文献

テキスト：「これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健〔改訂版〕」 鈴木美枝子〔編著〕 創成社 ¥2,400+税
 参考文献：「保育所保育指針」「保育所における感染症対策ガイドライン」「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」
 ・授業開始時に授業プリントおよびワークシートを配布する。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：子どもの健康と安全、子どもの食と栄養、保育内容（健康）、保育の心理学
 資格との関連：保育士

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の発育・発達や予防接種について、自身の母子健康手帳を見たり、家族で子どもの頃の話をするなどで、理解を深めるとよい。 ・学習範囲が広く専門用語も多いため、テキスト・授業プリント・ワークシートにて毎週予習・復習を必ず実施する。 ・日頃から母子保健について関心を持ち、新聞やニュースなどから情報収集を心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・座席は指定です。授業開始時には着席し、授業に臨んでください。遅刻はしないこと。 ・携帯電話は電源を切り、カバンにしまっておくこと。 ・課題は期日までに指定した場所に必ず提出してください。 ・欠席した場合、各自配布資料・課題を共同研究室へ取りに行くこと。配布資料は人数分印刷するため、紛失などした場合は他の学生からコピーをしてください。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	60	①	✓	到達目標①②③④に対応した、基礎的な知識を問う問題を出題し評価する。	
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
	平常評価	小テスト		15	①	✓	前回の授業内容についての小テストを2～15週の授業開始時に実施する。授業毎に配布するワークシートより出題する。小テストの点数を平均して評価する。 ①授業内容を理解しているかを確認する。 ②穴埋め問題を出題する。
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
		レポート		15	①	✓	基本的な知識および授業を理解できているか、保育者の立場から考え記述されているか、文献を用いた内容、事実に基づいた情報をまとめているかを確認し評価する。 ①自分の日常生活をふり返り、（前期における）健康にむけての行動目標と行動内容をまとめる。保育者としての健康管理の必要性を考える。 ②「排泄への支援」についてまとめる。 ③「保育者の予防接種の重要性」について考えまとめる。 ④「アトピー性皮膚炎のスキンケア」の動画を視聴し自宅で体験しレポートにまとめる。 ⑤「自分の住む地域における母子保健サービスとその内容」を調べまとめる。
					②	✓	
					③		
					④	✓	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		0	①				
			②				
			③				
			④				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）		10	①	✓	（主体性） ・毎週予習を行い、授業内容を把握し授業に臨む。 ・課題に必要な知識についてテキストや文献を使って自己学修する。 （実行力） ・復習・課題は積極的に実践し、課題は提出日を守る。 ・保育者の視点で自ら健康について意識し、行動に移す。 （課題発見力） ・情報を客観的に整理し、子どもの健康状態や必要な対応等考える能力を身に付ける。 （創造力） ・子どもの健康を固定概念に捉われないこと、保育所と家庭、地域の専門機関・関係機関との連携など様々な方向から考えることができる。 （協働力） ・整理した内容的確かな文章で表現できる。 （傾聴力） ・意見を聴く時は共感・共有する姿勢を持ち、自分の意見との共通点・相違点を肯定的に受けとめることができる。 （規律性） ・無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 ・授業終了後、ゴミを片付け、整理整頓ができる。 ・欠席した場合は、フォローレポートを提出する。	
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>・地域における母子保健対策を理解し、母子保健サービスとその内容が説明できる。また地域との連携について具体的に述べるができる。</p> <p>・乳幼児の発育・発達の説明でき、その評価方法がわかる。保護者への支援を具体的に挙げることができる</p> <p>・子どもの健康観察のポイント、心身の不調の特徴と対応が具体的に説明できる。また日々の健康観察と保護者との情報共有を関連付けて説明できる。</p> <p>・子どもに見られる疾病の特徴と保育所における予防・対応が説明できる。また他職種間との連携の必要性が説明できる。</p> <p>総合評価90点以上はS（秀）、89～80点をA（優）とする</p>	<p>・地域における母子保健対策について、母子保健サービス、地域との連携の必要性を挙げることができる。</p> <p>・発達の原則と月年齢に応じた身体発育が説明できる。また発育・発達の評価を挙げることができる。</p> <p>・子どもの健康観察の項目、子どもに見られる心身の不調とその対応を挙げることができる。</p> <p>・子どもに見られる疾病と特徴、保育所における予防と対応を挙げることができる。</p> <p>総合評価79～70点はB（良）、69～60点はC（可）とする</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	子どもの健康と保健の意義 ・子どもの定義(在胎週数、出生体重、年齢による区分)を理解する。 ・保育における子どもの保健活動の意義と子どもの健康を理解する。 ・母子保健統計から日本の子どもの健康水準を知る。	・講義	・「子どもの定義」を述べることができる。 ・「保育における子どもの健康」を述べることができる。	(予習)テキストP1～17を読む。 (復習)①「子どもの定義」「子どもの健康」②「保育者の健康管理の必要性」③前期における「健康に向けての行動目標」④②③をまとめ、次回提出。 ④ワークシート(体のつくり)を実施する。	180	主体性 実行力 規律性
2	子どもの発育・発達と保健① ・発育、発達、成長の意味を理解する。 ・スキヤモンの発育曲線、身体発育(身長、体重、胸囲、頭囲)について学ぶ。身体発育の評価法を理解する。	・1週の課題①②③提出 ・小テストおよびフィードバック ・講義	・発育、発達、成長の意味を説明できる。 ・月年齢に応じた身長、体重の発育を説明できる。	(予習)テキストP31～35、P60～69を読む。 (復習)①ワークシート(身体発育)を実施し覚える。②母子健康手帳にて自分の身体発育を確認する。	180	主体性 課題発 見力
3	子どもの発育・発達と保健② ・歯と骨の発育について理解する。 ・運動機能の発達の原則を理解し、乳幼児期の月年齢に応じた運動機能の発達経過を学ぶ。 ・発達の評価の意義について理解する。	・小テストおよびフィードバック ・講義、DVD視聴	・歯の萌出時期が言える。 ・運動機能の発達の原則について説明できる。 ・乳児期における運動機能の発達の順序が言える。	(予習)テキストP35～43、P69～71を読む。 (復習)①ワークシート(歯、運動機能の発達)を実施し覚える。②母子健康手帳にて自分の発達経過を確認する。	180	主体性 課題発 見力
4	子どもの発育・発達と保健③ ・生理機能(消化吸収、排泄、睡眠、免疫)の発達について理解する。 ・感覚器の発達について理解する。	・小テストおよびフィードバック ・講義	・乳幼児期の消化吸収、排泄、睡眠の特徴を述べることができる。 ・視覚の発達について述べることができる。	(予習)テキストP46～54を読む。 (復習)①ワークシート(生理機能の発達)を実施し覚える。②課題「排泄への支援」についてまとめ理解する。次回提出。	180	主体性 実行力 発信力
5	子どもの心と体の健康状態の把握① ・健康診断、日々の健康観察と保護者との情報共有について理解する。 ・子どもの健康状態の観察項目を理解する。	・4週の課題提出 ・小テストおよびフィードバック ・講義	・保育所における健康診断を挙げることができる。 ・家庭との情報共有の方法を挙げることができる。 ・健康観察の項目が挙げることができる。	(予習)テキストP72～82、P171～172を読む。 (復習)①ワークシート(健康診断、健康観察)を実施し覚える。②テキスト巻末ワークシート3-①を記述し覚える。	180	主体性 課題発 見力 創造力
6	子どもの心と体の健康状態の把握② ・生理機能(体温、脈拍、呼吸)の特徴を理解する。 ・体調の良くない子どもへの対応を理解する。	・小テストおよびフィードバック ・講義	・乳幼児期の体温・脈拍・呼吸の標準値を述べることができる。 ・子どもによく見られる心身の不調を挙げることができる。	(予習)テキストP43～46、P82～94を読む。 (復習)ワークシート(バイタルサイン、体調不良時の対応)を実施し覚える。	180	主体性 課題発 見力
7	子どもの病気の予防と適切な対応① ・感染症発生の三大要因とその対策を理解する。	・小テストおよびフィードバック ・講義 ・Google Classroom「保育所における感染症対策ガイドライン」提示	・感染症発生の三大要因とその対策を挙げることができる。	(予習)テキストP96～98、P121～125を読む。 (復習)①保育所における感染症対策ガイドライン「三大要因とその対策」を読む。②ワークシート(感染症の三大要因と対策)を実施し覚える。	180	主体性 課題発 見力 創造力
8	子どもの病気の予防と適切な対応② ・予防接種について理解する。 ・学校感染症と出席停止期間について理解する。	・小テストおよびフィードバック ・講義	・定期予防接種、任意予防接種を挙げることができる。 ・学校感染症の出席停止期間を述べることができる。	(予習)①テキストP126～139を読む。②母子健康手帳を用い、自分の予防接種歴・罹患歴を確認する。 (復習)①ワークシート(予防接種、学校感染症の出席停止期間)を実施し覚える。②課題「保育者の予防接種の重要性」について考えまとめる。次週までにGoogle classroomに提出。	180	主体性 課題発 見力 創造力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	子どもの病気の予防と適切な対応③ ・子どもがかかりやすい感染症(ウイルス性感染症:麻疹・インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・伝染性紅斑・手足口病・咽頭結膜熱・ヘルパンギーナなど)の特徴と保育所における対応を理解する。	・8週の課題提出(Google classroom) ・小テストおよびフィードバック ・講義、DVD視聴	・子どもがかかりやすいウイルス感染症を挙げることができる。	(予習) テキストP98～109、P111～117、P121を読む。 (復習) ワークシート(ウイルス性感染症)を実施し覚える。	180	主体性 課題発 見力
10	子どもの病気の予防と適切な対応④ ・子どもの病気(細菌性感染症:結核・百日咳・溶連菌感染症、呼吸器、皮膚、消化器系)の特徴と対応について学ぶ。	・小テストおよびフィードバック ・講義、DVD視聴	・子どもがかかりやすい細菌感染症を挙げることができる。 ・病気の特徴を挙げることができる。	(予習) テキストP106、P108～111、P117～121、P158～161を読む。 (復習) ワークシート(細菌性感染症)を実施し覚える。	180	主体性 課題発 見力
11	子どもの病気の予防と適切な対応⑤ ・子どもの病気(血液、腎泌尿器、内分泌系など)の特徴と対応について学ぶ。	・小テストおよびフィードバック ・講義、DVD視聴	・病気の特徴を挙げることができる。	(予習) テキストP162～165を読む。 (復習) ワークシート(血液、腎泌尿器、内分泌系など)を実施し覚える。	180	主体性 課題発 見力
12	子どもの病気の予防と適切な対応⑥ ・子どもの病気(先天異常、循環器系、神経系)の特徴と対応について学ぶ。	・小テストおよびフィードバック ・講義、DVD視聴	・病気の特徴を挙げることができる。	(予習) テキストP165～168を読む。 (復習) ワークシート(先天異常、循環器系、神経系)を実施し覚える。	180	主体性 課題発 見力
13	子どもの病気の予防と適切な対応⑦ ・アレルギー疾患(アトピー性皮膚炎、気管支喘息)の症状と対応について理解する。	・小テストおよびフィードバック ・講義 ・Google Classroom「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」提示	・気管支喘息、アトピー性皮膚炎の症状を挙げることができる。 ・生活管理指導表の活用の流れが言える。	(予習) テキストP140～141、P148～157を読む。 (復習) ①「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎)を読む。②ワークシート(生活管理指導表、気管支喘息、アトピー性皮膚炎)を実施し覚える。③「アトピー性皮膚炎のスキンケア」の動画を視聴し自宅で体験する。結果をまとめ、次週までにGoogle classroomに提出。	180	主体性 課題発 見力 発信力
14	子どもの病気の予防と適切な対応⑧ ・アレルギー疾患(食物アレルギー)とその対応について理解する。 ・アナフィラキシーとアナフィラキシーショック、保育所における対応について理解する。	・13週の課題提出(Google classroom) ・小テストおよびフィードバック ・講義 ・演習:エピペン®注射の取り扱い方	・食物アレルギーの症状を挙げることができる。 ・エピペン®注射の接種部位が言える。	(予習) テキストP141～148を読む。 (復習) ①「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(食物アレルギー)を読む。②ワークシート(食物アレルギー)を実施し覚える。③課題「自分の住む自治体の母子保健サービス」について調べまとめる。次週までにGoogle classroomに提出。	180	課題発 見力 創造力 傾聴力
15	地域における保健活動と子ども虐待防止 ・子どもの健康に関する国の施策と地域における母子保健活動を理解する。 ・児童虐待の現状を知り、保育所における役割と地域との連携を理解する。	・14週の課題提出(Google classroom) ・小テストおよびフィードバック ・講義	・地域における母子保健活動を挙げることができる。 ・児童虐待の分類を説明することができる。	(予習) テキストP17～26を読む。 (復習) 地域における母子保健活動、児童虐待において保育所における役割と地域との連携についてまとめ振り返る。	180	主体性 創造力 発信力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力